

研究課題名 (和文)

糞 DNA 分析法を用いたロシア北東地域におけるホッキョクグマの食性研究

■ 研究の実施状況とその成果

はじめに

本研究の最終目的はロシア北東地域に分布するホッキョクグマ個体群の摂餌生態を明らかにすることである。2005 年以降、ロシア北東地域に位置するラプテフ海や東シベリア海の沿岸部のいくつかの地域で、夏期にホッキョクグマがヒトの居住区に出没しゴミや家畜等を漁るといった問題が報告されている。これらの問題の実態を把握し発生要因を追究するため、本研究ではホッキョクグマの摂餌生態という観点からのアプローチを試みる。第一段階としてロシア北東地域のホッキョクグマが「なにを食べているのか」を明らかにするため、ホッキョクグマの分布域での糞の探索を行った。本研究は、ロシア科学アカデミーシベリア支部凍土圏生物問題研究所（以下、IBPC）（ロシア連邦サハ共和国ヤクーツク市）を共同研究機関とし、派遣期間中に今後の共同研究体制の構築とサハ共和国ティクシでの野外調査を実施した。

サハ共和国ティクシでの野外調査

2017 年 3 月 24 日～2017 年 4 月 3 日の期間中、ラプテフ海に面するサハ共和国ティクシ市を訪れ、野外調査を実施した。野外調査中はスノーモバイルで移動し、3/25-3/28 の 4 日間と 4/1 の二回に分けて行った。一回目はティクシから北西方向に約 1000 km に渡って探索した。二回目の調査はティクシの北～北東側の沿岸部を探索した。

✓ 沿岸地域におけるホッキョクグマ被害の現状把握

ティクシの最もラプテフ海に近いビコフスキーの村では、住民に意見を聞くことができた。住民によると、近年になって夏期に村のすぐ外にあるゴミ置き場にホッキョクグマが出没するようになり、家畜が襲われることもあり大変危険であるとの情報を得た。また、漁師が寝食や道具の保管などに使用する小屋に残されている魚や食料などをホッキョクグマが食べに来るようになり大変危険なので、現在はあまり使われていないとの情報を得た。これらの情報はいずれも、近年、夏期のホッキョクグマの行動圏が沿岸部（南部）に拡大しており、ゴミや食料・漁獲物等のヒト由来の餌を利用していることを示唆するものである。



ホッキョクグマ出没が問題となっているビコフスキーの村

✓ ホッキョクグマの痕跡探索および糞採集

ティクシの北西エリアでホッキョクグマの足跡を発見した。大きさや数などから、おそらく親子のものであると予想された。また、足跡の付近でホッキョクグマの糞を3つ発見し、採集した。糞は当該申請課題である DNA 食性解析のためのサンプルと未消化物分析のためのサンプルの二つに分けて採集を行った。また、ホッキョクグマ以外にもホッキョクギツネなど、食性のオーバーラップが予測される生物の糞を採集した。



ホッキョクグマ糞採集の様子

本派遣の成果

本派遣期間中に行った活動によって、研究を遂行していくための準備として非常に有意義な成果が得られた。第一に、最大の目的であった野外調査および第一回目の糞サンプリングを実施することが出来た。第二に、野外調査の成果をもとに共同研究者と今後の研究および調査計画に関する綿密な意見交換を行い、目標達成までにクリアすべき問題点をより明確に共有することが出来た。ロシア北東地域におけるホッキョクグマの摂餌生態に関する研究は端緒に就いたばかりであるが、今後とも積極的な姿勢で取り組んでいきたい。